GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

Race Report

Super Taikyu Series 2014

Round 1 Motegi

3 月 29 日～30 日、スーパー耐久シリーズ 2014 第 1 戦「もてぎスーパー耐久」が栃木県ツインリンクもてぎで開催されました。#333 GLORY A-ONE FN2 野間/中島/藤田/白石組は ST4 クラスで予選 7 位、決勝 2 位となり今季初表彰台を獲得しました。

■レース概要

大会名	スーパー耐久シリーズ 2014 第 1 戦 もてぎスーパー耐久
日時	2014 年　3 月 29 日（土），30 日（日）
場所	ツインリンクもてぎ（栃木県）
入場者数	3 月 29 日（土）6,000 人／3 月 30 日（日）5,000 人

■レース結果概要

車名	333 号車 GLORY A-ONE FN2
ドライバー	A:野間一 B:中島佑弥 C:藤田弘幸 D:白石勇樹
予選	ST4 クラス 8 位（19 台中）
決勝	ST4 クラス 2 位（19 台中）

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

今回のレースに向けて

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

今シーズン GLORY A-ONE FN2 はチーム体制を変更しました。オーナー兼 C ドライバーの藤田選手のもと、A ドライバーは 4 年目となる野間一選手を継続起用。新加入のドライバー達を引っ張るリーダー役だけでなく開発ドライバーも担当します。

B ドライバーは中島佑弥選手を起用します。スーパーFJ や F4 を経て 2012 年には ST4 クラスで S 耐デビュー。フォーミュラで鍛えたスピードを武器に、S 耐でも優勝を含む優秀な成績を残す若手成長株です。

また、開幕戦もてぎでは D ドライバーの登録が許されており、白石勇樹選手をスポット起用します。

白石選手はエーワンの秘蔵っ子として S-FJ に参戦、FCJ を経てアジアンフォーミュラルノーでチャンピオンを獲得。本場ヨーロッパでは F3 や GP3、GP2 のテストで好結果を残した海外帰りのフォーミュラドライバーです。

開幕戦の舞台となるのは栃木県ツインリンクもてぎロードコースです。全長 4.8km のこのコースはストップアンドゴーを繰り返すレイアウトのため、ブレーキとエンジンへの負担が大きいサーキットとしても知られています。このためインテグラやシビックといった FF 勢が有利と言われます。さらに 5 時間という長丁場でありマシンとドライバーの耐久性や信頼性が試される耐久色の強いレースが予想されていました。

マシンの面ではレギュレーション変更によりタイヤサイズが変更となります。昨年までの 86 用タイヤ（230/610-17）からインテグラ用タイヤ（215/45-17）へ変更され、シビックへのマッチングが向上すると期待されます。

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 29 日 ウォームアップ走行・ピットウォーク・キッズウォーク

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

3 月 29 日（土）8:45 から 60 分間のウォームアップ走行がスタートします。この走行では予選に向けた最終セットアップと程度のよいタイヤでの習熟走行をします。

#333 GLORY A-ONE FN2 は野間選手がニュータイヤでコースイン。2 周のアタックで 2'10.39 を記録しモニターのトップに立ちます。前日のフリープラクティスで作り上げたセットアップはニュータイヤでも好調でした。続いて中島選手に交代しタイヤの感触を確認しながら予選のシミュレーションを実施します。さらに白石選手に交代し 2'11.0 という好タイムを記録して予選シミュレーションを完了します。ラストは再び中島選手が乗り込みレースに向けて新品ブレーキディスクとブレーキパッドの当たりつけを行いました。

P1	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 小林康一/ピストン西沢/塩谷烈州
P2	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 野間一/中島佑弥/藤田弘幸/白石勇樹**
P3	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄/藤田竜樹/山本幸彦
P4	#52	埼玉トヨペット GreenBrave 番場琢/服部尚貴/平沼貴之

ウォームアップ走行に続いて、11:15 からピットウォーク、12:05 からキッズウォークが実施され、春休み最後の週末ということもあり、車好きの家族連れが多数来場し、ドライバーやレースクイーンと記念撮影をしたりサインをもらったりと思い思いに楽しんでいました。

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 29 日 予選（A/B）

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

3 月 29 日（土）13:20 から 20 分間の A ドライバー予選 2 グループがスタート。#333 GLORY A-ONE FN2 野間選手はコースインラップでタイヤウォームアップを行い、先頭を切ってアタックを開始します。計測 1 周目に 2'10.594 を記録し 3 番手となります。計測 2 周目のアタックではさらなるタイムアップを狙いますが、前方の S2000 との距離が縮まってしまいタイムアップできず。予選 3 位となりました。

ハードブレーキングを繰り返すもてぎロードコースでは、マウンテンブレーキディスクとエンドレスブレーキパッドによるストッピングパワーが大きなアドバンテージとなった形です。

P1	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄
P2	#86	GAZOO Racing SPIRIT 86 蒲生尚弥
P3	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 野間一**
P4	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 小林康一

14:10 から B ドライバー予選 2 グループがスタート。#333 GLORY A-ONE FN2 中島選手も先頭でコースイン、1 周目のアタックはタイヤの状況を確認しながらも 2’11.844 を記録。2 周目のアタックで更なるタイムアップを目指します。しかし、アタック中の最終コーナー手前でリヤの挙動がおかしくピットへ戻ります。ピットではメカニックによる確認を行い再びコースイン。しかし、ニュータイヤのピークは過ぎてしまいタイムアップはならず、予選 9 位と本来の実力を出し切れない形となりました。

P1	#93	SKR ENGINEERING S2000 太田侑弥
P2	#86	GAZOO Racing SPIRIT 86 井口卓人
P3	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 藤田竜樹
P9	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 中島佑弥**

予選総合結果は A/B ドライバーのベストタイム合算により決定され、予選 8 位となりました。翌日の決勝レースは雨が予想されており、はここから確実にトップを目指して行くことでチームも一つになりました。

P1	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄/藤田竜樹
P2	#86	GAZOO Racing SPIRIT 86 蒲生尚弥/井口卓人
P3	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 小林康一/ピストン西沢
P8	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 野間一/中島佑弥**

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 29 日 予選（C/D）

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

続いて 15:00 から 15 分間の C ドライバー予選 2 グループがスタート。このセッションは予選結果には反映されませんが、基準タイムをクリアしなければ決勝への出走が認められません。#333 GLORY A-ONE FN2 藤田選手は 3 周の計測ラップすべてで余裕をもって基準タイムをクリアしました。

P1	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 塩谷烈州
P2	#92	SKR ENGINEERING S2000 井入宏之
P3	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 山本幸彦
P13	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 藤田弘幸**

この日最後の走行となる、20 分間の D ドライバー予選が 15:25 からスタート。このセッションも予選結果には反映されませんが、基準タイムをクリアする必要があります。#333 GLORY A-ONE FN2 白石選手は他クラスのマシンの後ろでコースインしクリアラップを確保します。白石選手は今回が初めてのツーリングカーレースにも関わらず、冷静にアタックを行い 2 番手に 2.9 秒もの大差をつけてトップタイムを記録しました。

P1	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 白石勇樹**
P2	#48	Snap-on DIJON Racing DC5 Takamori 博士
P3	#18	Y’s distraction 86 浅野真吾
P4	#40	車買取り HERO’S x TRACY SPORT ings S2000 伊藤毅

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 30 日 ウォームアップ走行・ピットウォーク

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

3 月 30 日（日）8:00 から 20 分間のウォームアップ走行が行われます。前日夜から降り続く雨で路面はウェットのままですが、雨は上がり路面状況は少しずつ回復傾向です。

この走行では今回から変更になっているレインタイヤとセッティングの確認と、ドライバーのウェット路面への習熟を行います。

まずは野間選手がアウト・インでマシン状況を確認します。マシンバランスも良くスピードもあることが確認されたため、続いて中島選手が計測 2 周を走り 2’22.076 を記録。続いて白石選手も走行し 2’20.193 とクラストップタイムを記録します。ウェット路面でのマシンバランスが良いことが確認され、ドライバーも習熟することができました。

セッション中はフロントガラスが曇ってしまったため、決勝に向けて対策を施し、準備は万端です。

P1	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 野間一/中島佑弥/藤田弘幸/白石勇樹**
P2	#111	EXPRIDE G-Tech Sportster GT/R 大瀧賢治/武井寛史
P3	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 小林康一/ピストン西沢/塩谷烈州
P4	#86	GAZOO Racing SPIRIT 86 蒲生尚弥/井口卓人

10:35 から 50 分間行われたピットウォークは雨にも関わらず熱心なファンが来場しました。今年のエーワンレースクイーンである、小林未来さんと石川靖子さんの 2 名を中心に、ドライバー達もファンサービスに努めます。もてぎは野間選手の地元でもあり、ファンも多く訪れてくれました。

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 30 日 決勝

#333 GLORY A-ONE FN2 野間一 / 中島佑弥 / 藤田弘幸 / 白石勇樹

3 月 30 日（日）ピットウォークが終わっても雨は降り続き、上がる気配はありません。決勝は 3 回のドライバー交代義務があるため、野間選手→中島選手→白石選手→野間選手の順を基本にします。

グリッド上では雨が強くなるのか弱まるのか、各チームとも悩みながら最後の調整に余念がありません。#333 GLORY A-ONE FN2 はレインでの速さは確認されているため、雨量を問わず広いコンディションに対応できる方向性でマシンをセットアップしてローリングスタートへと向かいます。

2 周のローリングラップを終えて 12:22 にレースがスタート。レインを得意とする野間選手は早速 1 コーナーで#13 ENDLESS 86 をアウトからオーバーテイク、3 コーナーで#93 SKR S2000、4 コーナーで#52 埼玉トヨペット 86 を、ヘアピンでは#92 SKR S2000 と次々と抜いて 4 番手まで順位を上げます。続いて最終コーナー手前で#86 GAZOO 86 が雨に足をとられスピンアウトし、#333 GLORY A-ONE FN2 野間選手は 1 周目を終えて 3 番手で帰ってきました。

#333 野間選手は 2 番手の#58 ウィンマックス DC5 を攻めたてますが、トップの#41 TRACY S2000 が逃げ切れないのを確認したため、一度#58 ウィンマックス DC5 の後方をキープし、3 台のバトルに持ち込むこととします。トップ#41TRACY S2000 と#58 ウィンマックス DC5 は激しいバトルを繰り広げますが、順位の変動はなく周回を重ねていきます。7 周目にはピットから野間選手へ前車を抜くよう無線が入り、8 周目には#58 ウィンマックス DC5 を、9 周目には#41TRACY S2000 を相次いで抜き、ついにトップに躍り出ます。

トップに立った#333 GLORY A-ONE FN2 野間選手は一気にペースアップし 2'21 秒台で周回を重ね、みるみると後続との差を広げます。また 12 周目には#58 ウィンマックス DC5 は#41TRACY S2000 を抜いて 2 番手に浮上、さらに 22 周目には早めのピットストップを行っていました。

その間、#333 GLORY A-ONE FN2 野間選手は 2'20 秒台までスピードを上げ、2 番手#41 TRACY S2000 との差を着実に広げ、41 周目には 1 分以上の差を作ってピットへと帰ってきます。

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

3 月 30 日 決勝

給油とフロントタイヤの交換を終えた#333 GLORY A-ONE FN2 は中島選手に交代。2 番手でコースへ復帰します。先に 1 回目のピット作業を終えた#58 ウィンマックス DC5 はタイヤ交換をせずにピット作業を短縮しており、#333 GLORY A-ONE FN2 中島選手はその後方で復帰することとなりました。

#333 GLORY A-ONE FN2 中島選手は今回初めて乗るシビックを、強い雨の中でも乗りこなして 2’22～23 秒でラップを重ねトップ#58 ウィンマックス DC5 に食い下がります。60 周目には#58 ウィンマックス DC5 が 2 回目のピット作業で給油、タイヤ交換、ドライバー交代を行ったため、#333 GLORY A-ONE FN2 中島選手はトップに立ちます。両者は一進一退のタイム差で周回を重ね#333 中島選手はミスなく 78 周目にピットへ戻ります。素早く白石選手へと交代し、給油とタイヤ交換を行います。

第 3 スティントを担当する白石選手は今回が初のツーリングカーレースとなりますが、持ち前の適応能力を発揮して 2’22～23 秒台で周回し、#58 ウィンマックス DC5 を追いかけます。その差は 20～25 秒ほどで推移し 2 台はミスの許されないハイレベルな神経戦を展開します。そして残り 1 時間ほどとなった 100 周目、最終スティントを再び野間選手に託し給油のみでコースインします。

最終スティントを走る#333 GLORY A-ONE FN2 野間選手は、トップを走る#58 ウィンマックス DC5 との間の 20～25 秒差を 1 周 1 秒のペースで追い上げて行きます。#333 野間選手は 2'21 秒台のラップで走り続け、この追走劇に場内も盛り上がります。しかし、あと 1.4 秒というところで無情にもチェッカーフラッグが提示され 5 時間のレースは終了。優勝まであと少しというところで#333 GLORY A-ONE FN2 は 2 位となりました。

P1	#58	ウィンマックス TEIN ワコーズ KRP☆DC5 小林康一/ピストン西沢/塩谷烈州
P2	**#333**	**GLORY A-ONE FN2 野間一/中島佑弥/藤田弘幸/白石勇樹**
P3	#41	UEMATSU x TRACY SPORTS ings S2000 植松忠雄/藤田竜樹/山本幸彦
P4	#52	ENDLESS ADVAN 86 小泉和寛/村田信博/小川諒

GLORY RACING TEAM A-ONE

30th Mar 2014　　2014 年 3 月 30 日

まとめ

チーム代表 大河原一

「今回のレースからレギュレーションの変更によりタイヤが変わり、インテグラ勢と同じものとなったことで、やっと勝負の土俵に乗ったという思いです。ドライの予選では 3 番手タイム、レインの決勝ではファステストラップも記録していることから、マシンとタイヤのマッチングも良いことが分かります。

中島選手はエーワンへ来て初レースということで、いろいろと緊張もあったと思いますが、シビックへの適応も含めてとてもスムーズにこなしてくれました。

白石選手はエーワン育ちですが、ツーリングカーレースは今回が初めてです。それにもかかわらず、海外フォーミュラで磨いた技術で高いパフォーマンスを発揮してくれました。

しかしながら、これだけの速さがありながら1.4秒差で2位に甘んじたことは、とても悔しい思いです。チームスタッフもドライバーも誰もが、この 1.4 秒は自分が稼げたはず、という思いをもっています。

今回は 2 位でしたが、この経験をチーム全体がひとつ上のステップに上がるための、きっかけにしなければなりません。

今回も多くのご支援ご声援をいただき、大変ありがとうございました。次戦以降もご期待に応えられるようチーム一同全力を尽くします。これからも変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。」